

福部未来学園中だより

<http://www.torikyo.ed.jp/fukube-j/>

二度とない人生

～自分は開闢^{かいびやく}以来^{ただ}の第一人になる～

3月10日、33名の卒業生が福部未来学園中学校第一期生として学び舎を巣立っていきました。式1時間30分、卒業生による合唱2曲、そして卒業生退場まで含めると1時間45分という長時間にわたる第70回目の卒業証書授与式となりましたが、卒業生と在校生が一体となって大きな感動と決意の気運をつくりだした立派な式となりました。それを支えた教職員の指導、温かく見守りエールを送り続けてくださった保護者の皆様、そして来賓の皆様。この全ての思いが一点で結晶化した結果がああ卒業式を創り上げたのだと、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

式の中で、私の式辞、宇山総合支所長さん及び福壽PTA会長さんの祝辞において、卒業生へ伝えたメッセージに共通していた点がありました。それは、『自分の命はかけがえのないもの、その命を粗末にするな、出来ない理由を他者や事象、時代のせいにしなくて自分の命に責任を持って自分の命をまっとうなさい』、勝手な解釈かもしれませんが、私はそう受け止めさせていただきました。

ところで、命をまっとうするということが、日本人として絶対に忘れてはならないことがあります。6年前の3月11日に発生した東日本大震災のことです。地震の規模は日本周辺における観測史上最大のものといわれていますし、その後の大津波により甚大な被害が発生するとともにたくさんの尊い命が犠牲となりました。死者15,893名、行方不明者2,553名(2017/3/10時点)が示すとおり、想像を絶する惨状が三陸の各地で起こっていたことが推しはかれます。この亡くなられた方の中に、遠藤未希さんという女性がいらっしゃいます。宮城県南三陸町の職員で、危機管理課に配置され、防災放送を受け持たれていました。突然の誰も経験したことのない強い揺れ。未希さんは「すぐ放送を」と思い放送室に駆け込み、両手でマイクを握りしめ、必死で呼びかけ続けました。「大きい津波が来ています。早く、早く、早く高台に逃げてください」。三階建ての庁舎二階の放送室からは、津波がすさまじい勢いで容赦なく町をのみ込んでいく光景が迫り来るのが見えました。

未希さんをはじめ、庁舎にいた職員は一斉に席を立ち、屋上に向かう外階段を駆け上がります。その時、

津波は庁舎の屋上にも襲いかかり、津波の濁流が20人近い職員を一気にのみ込んでいきました。その中には未希さんも含まれていました。

未希さんの遺体が見つかったのは、その日から43日目の4月23日。未希さんの葬儀に駆けつけた町民は口々に「あの時の女性の声で無我夢中に逃げた。あの放送がなければ今ごろ自分は生きていなかっただろう」と涙を流しながら手を合わせたということでした。

未希さんの名前は「未来の未に、希望の希」。まさに自分の命を賭けて、多くの町民の方々に未来と希望を与えられたのだと思います。

しかし、同じ親としてご両親の胸の内を慮ると掛ける言葉も見つかりません。お父さんの清喜さんは、『ご苦労さま。ありがとう』という言葉をかけてあげたいと涙ぐまれたとのことですが、「残念、無念。親として子を守ってあげられなくて申し訳ない」。本心はこうだと思います。いろいろな思いが去来し、逡巡を繰り返す。こんな重荷を一生かかえて生きていらっしやることと推察します。

改めて、「命を有している意味」を大人であっても子供であっても、いつか、どこかで正面から向き合っ、繰り返し考える必要を感じます。それは、「生きることへの自問」であり、自らが解答を見出していく「生きることへの自答」であるからです。

究極の事例だったかもしれませんが、過去の出来事を風化させず、生きる鑑として学んでいくことは今を生きる人間として絶対に忘れてはならないことです。今回、卒業生に贈った坂村真民の詩を、33名がいつか、どこかで思い出し、二度とない人生をまっとうしてくれることを願わずにはおれません。33名の未来に希望そして幸多からんことを心から祈っています。

福部未来学園中学校長 木村 正人

力の限り

その力は小さくても 力の限り生きてゆこう
その愛は小さくても 精一杯の愛を傾けて生きてゆこう
時には切なく 生きる力を失おうとする時があっても
力をふりしぼって生きてゆこう
二度とない人生なのだ

坂村真民

「イギリスで感じたこと」

情報化が進む社会に対応した教育の在り方を学ぶために、昨年11月の2週間、イギリスのロンドン、ブライトン（イギリス南部の港町）への研修に参加しました。

研修のテーマは、「子どもたちの情報活用能力の育成」「ICT（情報通信技術）を活用した授業改善」「校務の情報化」でした。

イギリスの教育で最も大切にされていることは、生徒が主体的、協同的に学ぶことです。そのために、ICTを活用した学習に国を挙げて取り組んでいました。イングランドの学校では、校種に関わらず各教室に電子黒板、あるいはプロジェクターとスクリーンとそれらに接続しているコンピュータが常設されており、学習課題や学習の進め方、提示資料などを映し出して教師が授業を進めていました。また、生徒たちもタブレット端末やパソコンを様々な教科で有効的に活用しながら学習を進めていました。

この研修を通して感じたことを三つ紹介します。一つ目は、国によって文化の違いはありますがイギリスでも日本でも子ども達に将来必要とされている力は違いがないということです。社会の変化に伴って新しく生まれた様々なものを利用しながら、自分の考えをわかりやすく相手に伝えることができなければなりません。そのために、イギリスの先生も様々な工夫をしながら学習を進められていました。二つ目は、現状に満足することなく、新たな体験を通して自分自身を磨いていく必要があるということです。三つ目は、新たな人との出会いが、自分自身を豊かにしてくれることです。イギリスや日本各地の先生方と語り合い情報交換をすることで、視野を広げることができました。

最後に、この研修で得たものを一つでも多く福部の子どもたちの教育に活かしていけるように、今後も努力を続けたいと思います。

福部未来学園中学校 中瀬 宏



3年生 皆勤賞・精勤賞

皆勤賞（3年間、無遅刻、無欠席、早退なし）で4名の3年生が表彰されました。3年生での精勤賞（1年間、無遅刻、無欠席、早退なし）の12名も合わせて表彰されました。

| | | | | |
|-----|-------|-------|------|-------|
| 皆勤賞 | 近藤 翔 | 平戸拓也 | 安田大貴 | 山根翔伍 |
| 精勤賞 | 秋山英里奈 | 小谷帆乃花 | 近藤 翔 | 田中始歩 |
| | 田中 伶 | 鶴木勇志 | 平戸拓也 | 福壽紗来 |
| | 宮脇涼平 | 安田大貴 | 山根翔伍 | 山根麻衣子 |



各種表彰

○第54回児童生徒書道展

| | | | |
|----|----------|----------|----------|
| 特選 | 1年 井手野夏希 | 1年 上野 大輔 | 1年 安田 優香 |
| | 2年 仁木 文菜 | 2年 皆川 菜杏 | |

金賞 2年 片山 大暉

○平成28年度家庭の日作文コンクール

佳作 3年 田中 伶

○鳥取市教育委員会表彰

1年 岡部 礼隼

○鳥取市スポーツ奨励賞

| | | | |
|------|----------|---------|---------|
| 陸上 | 2年 別所 響 | 水泳 | 3年 徳中晃大 |
| サッカー | 3年 川口由依人 | 3年 田中聖也 | 3年 山根斗耀 |

